

経済・金融 フラッシュ

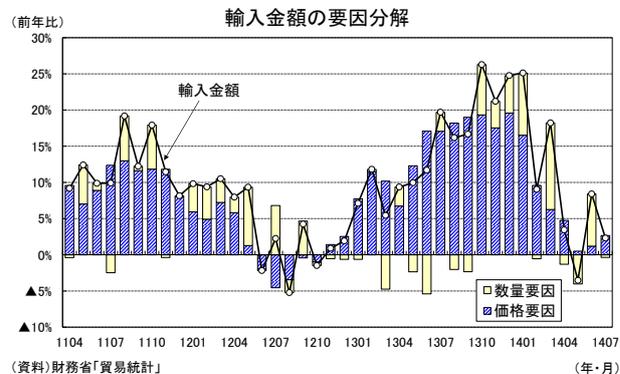
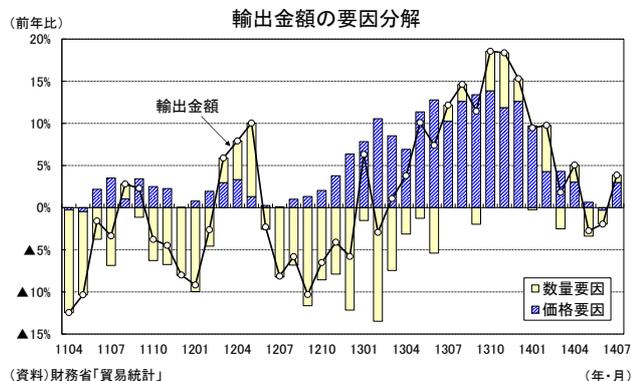
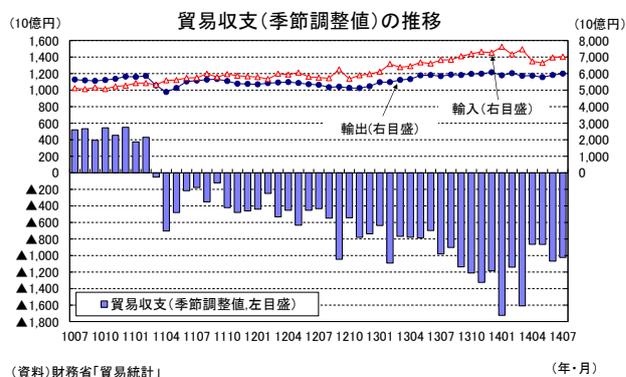
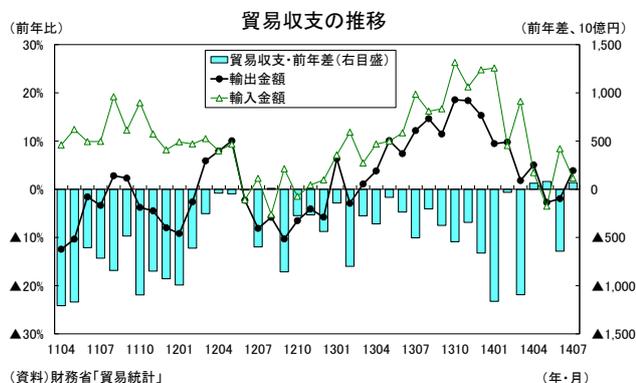
貿易統計 14年7月 ～米国向け自動車輸出の落ち込みが続く

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易赤字は市場予想を大きく上回る

財務省が8月20日に公表した貿易統計によると、14年7月の貿易収支は▲9,640億円の赤字となり、赤字幅は市場予想（QUICK集計：▲7,050億円、当社予想は▲7,472億円）を大きく上回った。ただし、輸出が前年比3.9%（6月：同▲1.9%）と2ヵ月ぶりの増加となる一方、輸入が前年比2.3%（6月：同8.4%）と伸びが大きく鈍化したため、前年に比した貿易収支は小幅ながら2ヵ月ぶりに改善した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比0.9%（6月：同▲1.6%）、輸出価格が前年比3.0%（6月：同▲0.3%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲0.4%（6月：同7.2%）、輸入価格が前年比2.7%（6月：同1.2%）であった。



季節調整値の貿易収支は▲10,238億円の赤字となり、6月の▲10,678億円とほぼ変わらなかった。

輸出（6月：前月比2.2%→7月：同1.5%）、輸入（6月：前月比5.0%→7月：同0.6%）ともに2ヵ月連続で増加した。季節調整済の貿易赤字は13年度後半の▲1兆円台から消費税率引き上げ後の内需の落ち込みを主因とした輸入の減少から4月、5月は▲8,000億円台まで縮小したが、6月、7月は内需持ち直しに伴い輸入が増加したため、赤字幅が再び▲1兆円台まで拡大した。

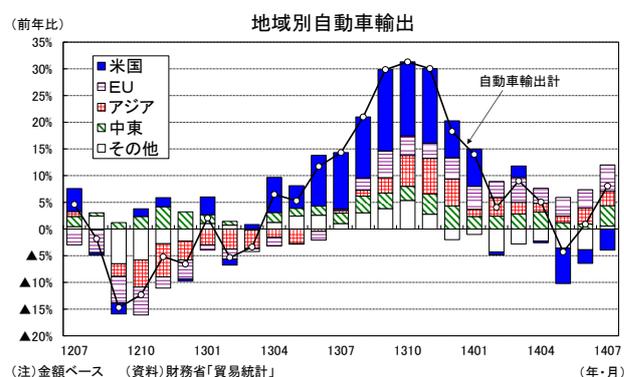
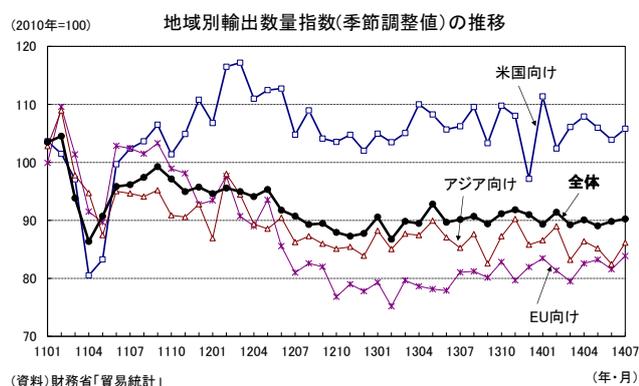
先行きについては輸出入とも緩やかな増加が見込まれることから、貿易赤字は一進一退の推移が続く可能性が高い。

2. 米国向け自動車輸出の減少が続く

7月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲1.0%（6月：同▲1.8%）、EU向けが前年比3.6%（6月：同4.5%）、アジア向けが前年比0.6%（6月：同▲5.4%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比1.8%（6月：同▲2.0%）、EU向けが前月比2.8%（6月：同▲2.0%）、アジア向けが前月比4.5%（6月：同▲3.2%）、全体では前月比0.5%（6月：同0.9%）であった。7月はいずれの地域向けも前月比で高い伸びとなったが、6月に大きく落ち込んだ反動によるところも大きく、基調としては一進一退の状況を脱していない。

特に目立つのが米国向けの自動車輸出の落ち込みだ。自動車輸出は全体では前年比で増加となったが、米国向けは5月が前年比▲23.6%、6月が同▲7.7%、7月が同▲13.4%（台数ベース）と大幅な減少を続けている。米国内の自動車販売は好調に推移しているが、日本企業は現地生産の拡大によって対応しているため、日本からの輸出につながっていない。



7月の輸入数量指数（季節調整値）は前月比▲0.8%（6月：同3.8%）となったが、7月の水準は4-6月期よりも1.2%高い。駆け込み需要の反動一巡に伴う国内需要の持ち直しを反映し輸入は回復基調に戻りつつある。

14年4-6月期のGDP統計では輸出が前期比▲0.4%の減少となったが、駆け込み需要の反動を主因とした内需の落ち込みを反映し、輸入が前期比▲5.6%の大幅減少となったことから、外需寄与度が前期比1.1%と成長率を大きく押し上げた。7-9月期は輸出が持ち直しに向かうものの、国内需要の回復に伴い輸入も増加に転じることから、外需のプラス幅は大きく縮小することが見込まれる。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。